

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイサービス 手と手の広場 2		
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日 ~ 令和7年1月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和7年1月6日 ~ 令和7年1月27日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	みんなが手話で伝わり合う環境の中で、異年齢の子どもたちが学び、遊ぶことができる場を提供している。	音声中心の子どもも手話中心の子どもも、みんなが手話や指文字を使い、お互いコミュニケーションが取れる環境を作っている。	指導員の、聴覚障害児に対する理解、支援の仕方などの専門性や手話力の向上を図っていく。
2	子どもや保護者との意思の疎通や連携が日常的に取れている。	その日の子どもの様子や気付きを、担当した指導員は必ず、保護者と話をするようにしている。また、担当以外でも気付きがあれば、保護者に伝えるなど連携するようにしている。体調不良や家庭の都合などでの欠席時にも、留意事項等があれば、その都度連携を取るようにしている。	より密な連携を継続していく。
3	発音発語指導、国語力の育成、コミュニケーション能力の向上、社会参加への支援等における専門性を有している。	できるだけ週に1回は発音発語指導ができるよう計画している。	苦手な児童も、楽しく発音発語活動ができるようにしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	緊急対応時のマニュアルや避難訓練の実施など、全保護者、全利用者に周知、説明することに時間を有する。	児童ごとに来所曜日がまちまちなので、全員が避難訓練を経験することがなかなかできにくい。	できるだけ、来所人数が多い日にちを確認して、複数回避難訓練を計画していく。避難訓練を実施した時に保護者に内容、様子等を丁寧に伝えていく。
2	子どもの活動等のスペースが限られている。	建物の2階ということもあり、上下階の状況によっては、静かに活動しなければならなかったり、遊びの種類や人数によっては、スペースを工夫したりする必要がある。	机の位置を移動するなどして、その時々々の活動に合ったスペースを確保している。
3			